



リッチモンド小学校との交流（その1）

6月24日（土）午前10時半過ぎ、リッチモンド小学校の子供32名と関係者の方が次々に福野小学校に集まってこられました。福野小学校が平成12年（2000年）から伝統的に行ってきた交流ですが、令和2年と3年はコロナのために中止され、昨年はオンラインでの交流でした。4年ぶりに対面での交流となったわけですが、両校の保護者や関係者の熱い思いが感じられ、よい交流になる予感がしました。私にとっては初めての経験だったので、その都度、思ったことを書いてみます。

① ホームステイ受け入れ希望者対象の保護者説明会

交流の実施ができるかどうかには当たっては、ホームステイを受け入れてくださるご家庭があるかどうか大きな問題です。過去に受け入れを経験し楽しい思い出のあるご家庭はともかく、初めて受け入れを考えておられるご家庭にとっては簡単に決断できるものではないでしょう。なにしろ自分の子供の養育だけでも大変なのに、他人の、それも文化や環境が違う外国のお子さん2名を受け入れるのですから。

ホームステイ受け入れ家庭の確保に向けては、父母と教師の会の担当者の方が、それこそ熱心に行動されました。4月の学習参観の折に保護者向けにPRされたり、高学年児童が全員集まった機会にプレゼンテーションされたりするなど、交流の楽しさを伝えられました。その甲斐があり、5月12日（金）に行われたホームステイ受け入れ希望者対象の保護者説明会には、募集定員よりも多くのご家庭が参加されました。もちろん、その中には、既に受け入れを決めてしまっているご家庭とまだ悩んでいるご家庭がいましたが。

私からは、その場に参加してくださったことへの感謝をするとともに、次のようなことをお伝えしました。「ホームステイの受け入れをきっかけに、お子さんが英語の勉強を頑張ってみようと思うかもしれません。将来、国際交流や外国との仕事に就こうと思うかもしれません。自信が付くかもしれません。もちろんやってみないと分かりません

し、吉と出るか凶と出るかも分かりません。しかし、新しいことに挑戦するということは、自分の将来の可能性を広げることになります。もしもお子さんが受け入れをしてみたいと希望しているなら、願いを叶えてあげてほしい」と。これは私が常々思っていることです。何もしなければ楽です。しかし、そこには何の成長も進歩もありません。挑戦することは苦勞を伴います。失敗のリスクもあります。しかし、失敗経験も含めて自分の成長につながる可能性があります。さらに成功したときには成長や自信となります。活動を通して、新しい人とのつながりができる可能性があります。だ



から、子供たちには「できそうなこと」や「やってみたいこと」には、失敗を恐れず、挑戦してほしいと思っています。

その後、受け入れ希望者多数のため、6年生を優先し、最後はじゃんけんをして受け入れ家庭が決まりました。当選した子供は大喜び、落選した子供はがっかり、中には大泣きする子供も見られました。それだけ、子供たちは、リッチモンド小学校の子供が来るのを楽しみにしていたのだと思います。

②対面式・ウエルカムパーティー

6月24日(土)、リッチモンド小学校の児童や関係者との出会いの時が来ました。

まずは、プレイルームで対面式が行われました。リッチモンド小学校の子供2名に対して、福野小学校のホストファミリーが紹介され、家庭毎に記念写真を撮りました。

そのままランチルームに移動し、ウエルカムパーティーの始まりです。田中南砺市長、松本教育長、齋藤南砺市友好交流協会副会長、福野縞製作者の野原様ら、4名のご来賓にもご臨席いただきました。パーティーは、管楽器クラブの演奏や横町の獅子舞、日本の縁日を思わせるような「輪投げ」「スーパーボールすくい」「射的」と続き、リッチモンド小学校からも歌とダンスの披露があるなど、盛大に進みました。終わりに、「ツバメ」を全員で合唱しました。

子供たちの中には、初対面の相手にも普通どおり自分の思ったことを言える子供もいるでしょうが、物怖じしてしまう子供もいると思います。大丈夫かなと心配もしました。しかし、パーティーが進むにつれて、自然に打ち解けていく様子が見られました。土日の予定は、もう決めているのかと尋ねたら、「蛍を見に行く」「イオンに行く」「友達も呼んで家で遊ぶ」「相手の希望を聞いて、それから決める」等、様々でした。パーティーの様子を見ていたら、楽しく過ごしてくれるような気がしてきました。保護者説明会のところに書いたように、「自分に自信がもてる」等、この交流が子供たちにとって、よい方向に働いてくれたらいいなと改めて思いました。

父母と教師の会の皆様、準備は大変だったと思いますが、ありがとうございました。リッチモンド小学校の川崎先生が挨拶の折に、感極まって言葉を詰まらせておられたように、本当にうれしかったと思います。また、私の前に座っていらっしゃった福野縞の野原様も「自分は高齢になったが、リッチモンドとの交流が生き甲斐である」というようにおっしゃっておられました。



交流が始まったばかりなのに、既にたくさんの感動場面に出会いました。この続きは、次の校長だよりにてお知らせします。
(校長 曲 師 政 隆)